

\*\*\*\*\*

開講科目名：家族法研究 (2単位)  
開設年次：1年 2年 3年 4年  
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻  
担当者：近藤 久雄

\*\*\*\*\*

## 《授業の概要》

### 【授業の目標】

本講座は、民法第4編親族、第5編相続の重要な論点を取り上げ検討する。夫婦関係、親子関係及び家族の死亡を原因とする財産の移転について、基本的な法的知識を修得したうえで判例、実務研究を行い、家族を巡る法的問題への対応能力の修得を目指す。

### 【授業の概要】

今日、家族をめぐる法は大きく揺らいでいる。平成25年、最高裁は婚外子の相続分を婚内子の2分の1とする民法900条4項但書の規定を違憲とする決定をおこなった（最高裁大法廷決定平成25年9月4日）。この判決を受けて漸く差別規定を削除する民法改正が行われた（平成25年12月）。さらに性同一性障害のため女性から性別を変更した男性と妻が、第三者の精子提供による人工授精(AID)で妻が産んだ長男の戸籍上の父親を性別変更した男性と認めるよう求めた事件で、最高裁第三小法廷は、申し立てを却下した第1、2審の判断を覆し、父親と認める決定をした。（最高裁決定平成25年12月10日）

前者は、憲法24条に家族生活における個人の尊厳と両性の本質的平等の規定があるにも関わらず、相続において婚内子と婚外子を差別する事の是非であり、後者は、生殖補助医療の発達により生じた生物学的なつながりのない親子関係設定の是非である。

これらは、法が社会の現実（家族の多様化や医療技術の進歩）に追いついていない証左である。なぜ、このような状況が放置されて来たのか、この点を検討するところから始めたい。まずは、判例データ・ベースを利用し、この2つの判例を読んで講座に臨んで欲しい。その上で家族の変化を踏まえた家族法のあり方と実務を考える契機としたい。六法を必ず持参して欲しい（判例付きが望ましい）。

### 【授業計画】

- 第1回 家族法総論：今何が問題となっているのか?二つの判例を通して
- 第2回 婚姻1：法律婚
- 第3回 婚姻2：非婚カップルの保護
- 第4回 離婚1：破綻主義の考え方
- 第5回 離婚2：家事調停における諸問題
- 第6回 親子関係1：実親子関係
- 第7回 親子関係2：養子親子関係
- 第8回 相続法総論：相続の意義、相続法の改正について
- 第9回 相続人と相続分
- 第10回 特別受益者の相続分・寄与分
- 第11回 遺産分割、相続の承認・放棄等
- 第12回 遺言：要件、遺贈、「相続させる」旨の遺言等
- 第13回 遺留分
- 第14回 判例・実務研究報告
- 第15回 まとめ：これからの家法を考える

### 【評価方法】

定期試験レポート（70%）、講座での報告、討論への参加状況（30%）

## 《テキスト》

レジュメ、資料を配布する。

## 《参考書》

二宮周平『家族法 第5版』（新法学ライブラリー9）新世社

内田貴『民法IV補訂版親族・相続』東京大学出版  
二宮周平著『事例演習家族法』（事例演習法学ライブラリー4）新世社  
水野 紀子編『民法判例百選III親族・相続 第2版』（別冊ジュリストNo. 239）有斐閣